

BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2010年5月2日発行

Vol.128, 第12号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

金融詐欺にご用心！-未公開株や高利回りの社債

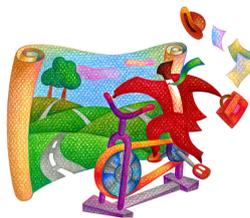
以前から、高利の出資証券、真珠やエビ養殖事業への投資、外為証拠金の運用での高配当の約束など、高齢者を狙った金融詐欺が手を変え品を変え、続いています。金融詐欺の被害が後を絶ちません。

この金融詐欺で怖いのは、老後の大切な資金が、一瞬にして消滅してしまうということです。特に、現在のように雇用や年金への不安が膨らんでくると、専門知識はないが、資産を少しでも増やしたいという心理になりそれに付け込まれ、被害が拡大している状況です。

このところ、急速に増えている金融詐欺のケースで被害が拡大している「未公開株」や「社債販売」による手口をここで紹介しましょう。

まず、「未公開株勧誘」です。その手口は「この環境関連企業の株は、数か月後上場を予定しており、上場後の値上がりは確実」と購入を勧め、被害者は数百万円を支払って株を購入。予定日になっても上場しないので、問い合わせると連絡が取れなくなってしまう。また未公開株がらみで目立つ事例は、複数のメンバーが絡む「劇場型」の手口です。まず金融業者を名乗る男から「A社の未公開株をもっていたら高値で買い取る」と電話があり、直後に別の男から「A社の未公開株を1株150万円で買わないか」と勧誘の電話が入る。高値での買取を当てにして未公開株を購入し、被害

にあうというケースです。他にも、過去に被害にあった人に、その損害を回復することを約束し、その条件として未公開株を購入させる、公的機関を装って信頼性を高めたり、謝礼を払うからと代理購入を求めたりといった手口も、国民生活センターによれば増えているそうです。2009年度に未公開株について寄せられた相談は、5560件と過去最高になっているとのことです。



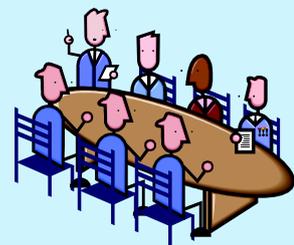
また「社債販売」を巡るトラブルも多発しています。例えば、「発展途上国でレアメタルや原油を採掘している」「現地の生活や経済に貢献している」などと好印象を与える文句を入れた、10%を超える高利の社債の案内書が送られてくる。別の業者が、「その社債だったら、それを5倍の値段で買い取る」と持ちかけるので、社債を数百万円購入してしまっただが、買い取るといった業者が、さまざまな理由をつけ買い取らないというのが代表的ケースです。

このような未公開株や社債がらみの話は、自分だけで判断せず、必ず家族や友人、FP、消費生活センターなどに相談することが必要です。

コーポレートガバナンス意識が低い日本企業

コーポレートガバナンスは、日本語では「企業統治」と訳されますが、いわば株主の代理人である経営者が、株主利益の最大化を達成するよう規律づける仕組みです。このコーポレートガバナンスで、日本の企業は、米国・イギリスの企業に比べ、大きく遅れている状況です。

コーポレートガバナンスが有効に機能しているかを測る着眼点として、独立性を確保した社外取締役の存在が十分かどうかがあります。日本では、東証一部上場企業の97%が、社外取締役の選任が義務付けられていない従来型の体制のままになっています。



これが、社外取締役数の大きな差になってきます。日米でその違いを見てみますと、東証上場企業の一社当たり平均の社外取締役数は、1人未満なのに対し、米国の代表的企業30社では、取締役の平均数12.5人のうち、社外取締役が10.7人、社内取締役が1.7人と少数派です。

経営者が、株主利益を体現して経営を行っているかを監視する役割が社外取締役にありますが、日本の場合社外取締役が少ないため、その役割が果たせていないのです。これが、企業の業績に、さらに配当金や株価に影響してきます。

今月の言葉： 敬天愛人

道は天地自然のものにして、人は之を行なうものなれば、天を敬するを目的とす。天は人もわれも同一に愛し給うゆえ、我を愛する心を以て人を愛するなり。

-西郷隆盛



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通じて、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒164-0003

東京都中野区東中野4-7-18

岡藤ビル303号

電話 : 03-5338-9733

携帯 : 090-4934-3121

FAX: 03-5338-9734

電子メール : info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを—BFSの大切な役割



私でも、ハイ・トライアスロンを完走できました！！

この話は、週2回程度走る普通の人が、10ヶ月のトレーニングでハイ・トライアスロンを完走できたというお話です。ところで、ハイ・トライアスロンは、水泳3.9キロ、自転車180.2キロ、マラソン42.195キロを通して走る世界で最も過酷なレースといわれています。

この完走を、この人は自分だけで成し遂げたわけではありません。ちゃんとしたコーチがいるのです。この普通の人、このコーチからトライアスロンでどうしたら成功するか学ぶつもりはありませんでした。ただいえることは、このコーチ(専門家)がいうとおりにしたら、10ヶ月のトレーニングで、世界一過酷なレースを完走できたということです。そして当人は、どうして完走できたか自分でもわからないといっています。普通の人、運動学や耐久レースでどうしたら成功するかを自分で学んでも、10ヶ月で、これだけの過酷なレースは完走できないでしょう。

これが資産運用にもあてはまります。本当のことをお伝えしますと、皆さんがどれだけ、市場がどう動くかを勉強しようが、世界経済がどのように株式投資に影響するか習得しようとしても、それが皆さんの投資の成果には、つながりません。むしろ飛んだ災難にもなりかねませ

ん。なぜなら、世界中の気鋭の専門家が、生業として何十年も議論したり、研究したりを繰り返している中で、皆さんが同じことをしても、残念ながら勝ち目はありません。資産運用も、このトライアスロン・ストーリーと同じで、コーチから学び取ろうとするのではなく、そのコーチのいうとおりにしたら、どうしてそうなったかわからないが、うまくいったという形が、最も成功につながります。しかも、資産運用の場合、トライアスロンのように肉体的苦痛を伴いません。ただ信頼できる専門家にゆだねるだけです。楽だと思いませんか？

また資産運用は、このトライアスロンのように、本当に長距離レースです。普通の人、このレースのスタートで短距離走のように走れば、トライアスロンのプロを一時的にリードすることは可能でしょうが、すぐに追いつかれてしまいます。資産運用でも、普通の人、自分でやって、短い期間ではうまくいっても、長期で均せば、運用のプロに勝つことは絶対に不可能です。信頼できる専門家に任せてしまうのが、成功につながる道なのです。小さな選択が人生を左右する大きな違いになる典型と考えられるケースです。そうすれば「私にもできちゃった！！」となるのです。